

(現ユニバーサル製缶)誘致、北落工業団地整備を甲良町政が事業主体となり進めてきましたが従業員の定着には全く繋がらず、「激減」状況が続き、ついに 2022 年 4 月「過疎地域」の指定を受ける町になりました。

この「激減」状態の原因については、事実に基づく分析・検証が必要です。同時に日本の社会・経済・政治が抱える根本的な問題があると思っています。持続的な移住・定住促進には人々が暮らすうえで必須条件である人間らしい暮らしを支える所得(仕事)、医療、介護、教育、住居などが必要です。それと共に老いも若きも安心して暮らせるそれぞれの多様性を尊重し、支え合える民主的な地域環境は現代では欠かすことができないのではないのでしょうか。

これらの生活条件に満足できず、町が実施をした町民意識調査では「町のイメージが良くない」と答えた方が多数おられる現実を直視し、改善・変革していくことが求められているのだと思います。

3、一旦壊された豊かな自然環境は容易には元に戻らない

当方は、当該地に工業団地を造成する計画が発表された当初から、自然・観光等への影響を懸念してきました。当該地の入り口に位置する西明寺の中野住職さんも強く懸念を表明され「工業団地反対」の看板を入り口近くに設置されています。これは 11 月に提出された三日月大造滋賀県知事への要望書で詳細に記述されている通りだと当方も考えます。進出企業の業種によっては、危険物質の垂れ流しなど環境に

悪影響を与える懸念も払しょくできません。

4、県民・町民の暮らし・医療・教育にこそ予算を

県との連携とはいえ、甲良町財政には莫大な負担となる恐れがあります。当初開発計画が発表された際、投入費用は概算で約 12 億円と試算されました。約 9 年前に発表された金額ですから、当時と比べ相当な高騰となっているのではないのでしょうか。町の負担割合が半額として、当時の金額でも約 6 億円となり、とても負担しきれず、強行すれば福祉充実の事業等に重大な支障をきたすと考えます。

甲良町は現在でも財政調整基金は約 6 億円、毎年の財政規模は約 35~約 40 億円程度を推移しており、巨額の費用が掛かる事業を幾つも控えています。近江鉄道の上下分離方式による市町負担、彦根愛知犬上広域行政組合による新ごみ処理整備事業の負担(計画段階)、尼子駅周辺に約 100 戸の住宅用地確保事業などです。

以上の理由により当方は当該地を開発事業の用地には適さないと考えます。

以上



愛知犬上生健会

「高齢者・ひとり親世帯に暖房費の補助を」

今年も寒い冬が迫ってきました。「地球沸騰」とは言えやっぱり冬は暖房が欠かせません。11月20日、愛知犬上生活と健康を守る会(本田秀幸会長)が暖房費の補助を求める要望書を提出。低すぎる年金の話題など、しばし面談しました。要望書によれば、18リットルで2000円を超え厳しい生活を強いられる年金生活の高齢者、ひとり親世帯に支援を訴えています。豊郷町は冷暖房費として8000円に補助を実施しているとのことです。

丸山光雄さん、西澤正子さん、生健会事務局長の長谷川さんが町役場を訪問し、熊谷副町長が対応しました。



要望書を提出する(右から)長谷川、西澤、丸山の各氏と熊谷副町長(11月20日=甲良町役場町長室にて)

103万円の壁ってなに？

「しんぶん赤旗」が分かりやすく解説しています。11月24日号の4面をご覧ください。Q&Aで分かりやすく、しかも、日本の税制度がいかに富裕層優遇の仕組みであるかにもふれています。お読みになった感想などもお待ちしております。

県主導による産業用地開発事業

自然まもり、開発より 暮らし・教育こそ最優先に

町が西ヶ丘山林を開発し企業誘致を目的に「県と市町の連携による産業用地開発事業」の候補地に応募したことに対し、西澤議員が12月2日に提出を予定している三日月知事あての意見書を紹介します。

県と市町の連携による 産業用地開発事業に ついての意見書

この度、滋賀県が進める「県と市町の連携による産業用地開発事業」（以降「開発事業」と言う）に対し、甲良町が名乗りを挙げ、甲良町池寺地先の約12ヘクタールの土地（山林）（以降「当該地」という）を対象に応募していることについて、以下のように意見を申し上げるものです。

1, そもそも立地条件に重大な 問題点がある

甲良町は、2015年より「南部工業団地」を整備するとして着手しましたが、迷走を続け、未だに具体的な進展はありません。その後、町は「産業集積地整備事業」として進め、今回開発事業への応募に至ったものと思われます。

くわしい経過についてはすでに県当局および候補地選定の審査委員会は掌握されておられると思いますが、開発を担う企業の募集も売却に応じる企業も正式申し込みのないまま今日に至っています。



当該地の進入口なると見込まれる地点

- ① そもそも当該地の入り口にあたる国道307号は交通量が多く、冬季はしばしば路面凍結となり、危険個所でもあります。おまけに入り口は、峠に当たり、信号機設置もふさわしくない個所でもあります。
- ② 当初「南部工業団地」として開発に乗り出しましたが、発表さ

れた計画図面では道路は、工業団地敷地内を「U」の字型に巡って国道307号に出てくるというものでした。それを防災上も危険であることを関係機関に指摘され、ほとんど頓挫した状況でした。そこで浮上した計画が池寺墓地あるいは長寺方面から追加の進入路を新設する「打開案」でした。しかし、これとて広大な山林買収と膨大な費用を投入しなければならないことから、現在では立ち切れとなっています。

2, 「人口減少防止・人口定着 に資する」は本当か？

甲良町における人口減少の状況は誰しもが「激減」と表現することに違和感はありません。しかし、誰もが安心して住み続けられる町、選びたくなる町でありたい、そのような町政と地域をつくりたいと当方は願い、町民のみならず、行政とも力を合わせ微力ながら努力しているところです。

しかし、現実には過去に北海製缶

12月議会の主な日程

- ◆3日（火）全員協議会
- ◆5日（木）開会、議案提案など、一般質問（西川、小森、木村誠治の各議員の順）
- ◆6日（金）一般質問（山田、西澤、丸山の議員の順）
- ◆13日（金）討論、採決など、閉会。その後、議会改革調査検討特別委員会

西澤議員の主な一般質問

- ごみ処理広域化と処理方式の問題点をたずねます。
- 紙の保険証が12月2日で廃止になる紙の保険証を存続させるべきとの視点でいくつか質問
- 尼子駅周辺に約100戸の住宅用地確保事業では町民の疑問に応え住民説明会を開くべきではないかとたずねます。



▲紅葉に染まる西明寺の三重塔

甲良民報

2024年12月1日 936号
発行責任：日本共産党甲良町支部
連絡：甲良町在士 373（西澤）
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご感想・ご相談をどうぞ。 ☆暮らし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949

◎日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】